

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2018年8月11日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、日比麻音子		
<p>検証テーマ：翁長県知事の死、北朝鮮が日本人男性を拘束、自民党総裁選に向けて 日中平和友好条約から明日で40周年、愛子さまが帰国のご挨拶 【特集】戦争と記録</p>		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・翁長県知事の死 ・群馬県墜落ヘリ、搭乗の九人全員の死亡確認 ・滋賀県草津市、首や腕の切断された人の胴体発見 ・兵庫県加古川市、衣装ケース内に若い女性の遺体 ・秋田仙北市、溪谷で男児二人流され一人重体 ・北朝鮮が日本人男性を拘束 ・自民党総裁選に向けて ・日中平和友好条約から明日で40周年 ・埼玉県久喜市の神社で鳥居が倒れる ・愛子さまが帰国のご挨拶 ・【特集】戦争と記録 ・スポーツ報道 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・翁長県知事の死：結論→特になし <p>今月8日臍臓がんでなくなった沖縄県の翁長知事が今日茶毘に付されたこと、アメリカ軍普天間基地の名護市移転に反対する県民大会が那覇市で開かれたことが報じられた。県民大会では翁長知事の次男翁長雄治の「ウチナンチュはここを一つに、一つにして戦うときはお前が想像するよりも遥かに大きな力になると、何度も何度も言われてきました。翁長雄志に辺野古新基地が止められたと、そういう報告ができるように皆様、がんばりましょう。」というコメントや謝花副知事の「埋め立て承認の撤回については、辺野古に新基地は作らせないと翁長知事の強く熱い想いをしっかり受け止め、そして引き続き我々もしっかり毅然として判断してまいります。」というコメント、「日本の民主主義と平和を守るため、この不条理に大使、全力で抗い続ける。」という県民大会決議、「辺野古基地断念というのを政府に突きつけてから翁長知事に報告したいですね。」や「本当に平和な沖縄をみんなで今一つになる、とても大事な時期じゃないかな、と。」という参加者の声を取り上げられていた。このトピックに当てられた時間は150秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。</p> ・オープニング：結論→特に問題なし <p>金平キャスターがオープニングで「沖縄県の翁長知事がなくなりました。元々保守政治家だった翁長さんが辺野古問題など政府と対立するきっかけは教科書検定で沖縄の集団自決の記述が消されたことでした。歴史の記録を残し未来の世代につないでいくこと、戦後73年、特集で考えます。」と述べていた。このコメントに当てられ</p> 		

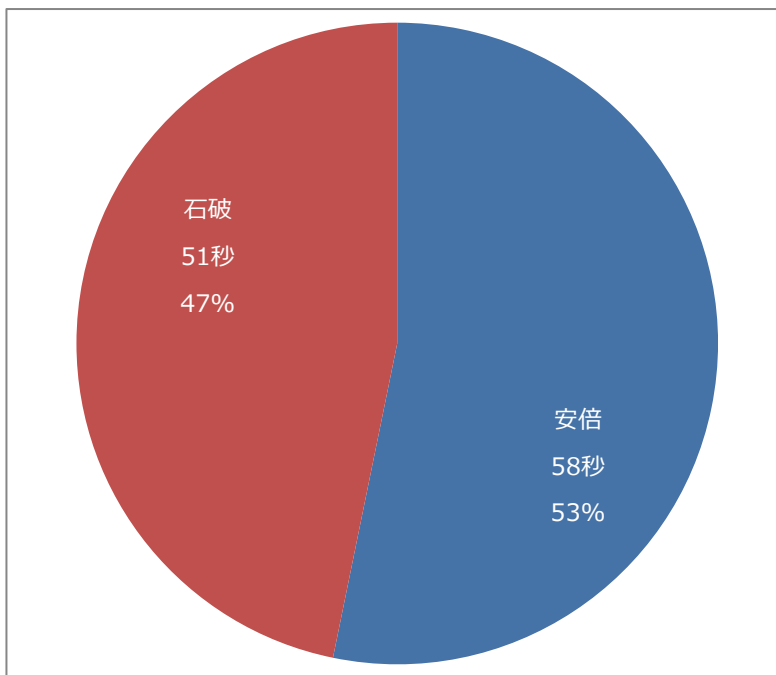
た時間は 18 秒で、特に問題は見られなかった。

- ・ 北朝鮮が日本人男性を拘束：結論→特に問題なし

日本人が北朝鮮当局に拘束された問題で男性はツアー旅行で北朝鮮を訪問中の 30 代で昨日拘束されたことがわかり政府は情報収集を急いでいること、政府関係者などによるとツアー旅行で北朝鮮を訪れている 30 代の日本人男性が昨日の昼に北朝鮮西武の南浦で拘束されたということと男性はこれまで複数回訪朝経験があるということが伝えられた。このトピックに当てられた時間は 60 秒で、放送法第四条の見地からは特に問題は見られなかった。

- ・ 自民党総裁選に向けて：結論→特に問題なし

自民党総裁選に向けて安倍・石破の両氏の動きが伝えられた。このトピックに当てられた時間は 109 秒で、それぞれの動きを伝えた時間配分及び比率は以下の通りであった。



安倍総理は地元山口県で開かれた自民党の県連大会で来月の総裁選について、近く正式に立候補する考えを示唆したこと、安倍総理の「私も六年前総裁選挙に出たときのあの志は微塵も変わるところがありません。しかし、そのうえで、志を支える気力、体力、果たして十分であるかということを手を自ら問いながら最終的に判断をしていきたい。」というコメント、その上で、憲法改正については自民党や今を生きる政治家の責任ではないかなどと改めて意欲をしめしたこと、大会へは安倍総理への支持を表明した二階派の河村予算委員長や山口選出の国会議員が出席したことが伝えられた。

一方石破茂元幹事長については昨日立候補を正式表明したこと、地元鳥取で国政報告を行ったこと、「正直、公正。」をキャッチフレーズに安倍総理への対決姿勢を前面にしていること、国民世論を味方につけ党員表を獲得する戦略であることが伝えられ、石破元幹事長の「この戦いは、日本国のために、次の時代のために絶対にやらねばならない戦いであり、絶対に勝ち抜かなければならない戦いであります。」や「政府、政治家も官僚もどっちも国民を見なければいかんのですよ。」というコメントが取り上げられていた。

放送法第四条の見地からは特に問題は見られず、両陣営の取り上げた時間配分も極めて公平なものであった。

・日中平和友好条約から明日で 40 周年：結論→特に問題なし

日中平和友好条約の締結から明日 12 日で 40 周年を迎えるのを前に両国間系の歴史や未来について話し合うシンポジウムが北京で開かれたこと、日中平和友好条約の精神を受け継ぎ友好協力を深めるというテーマで行われたシンポジウムは日本から鳩山元総理や横井裕大使が出席したことが報じられた。また、中国側代表として挨拶した戴秉国元国務委員は日中関係が今改善の重要な時期にあると強調したこと、戴秉国元国務委員の「中日関係は現在正常な軌道に戻る重要な時期にある。双方が危機意識を強化しなければならない。」という発言が取り上げられていた。このトピックに当てられた時間は 70 秒で、放送法第四条の見地からは特に問題は見られなかった。

・愛子さまが帰国のご挨拶：結論→特に問題なし

英国の名門イートン校でのサマースクール参加を終え、おととい帰国した愛子さまは皇太子ご夫妻と共に皇居を訪れ両陛下に挨拶をされたこと、これに先立ち午前には愛子さま一人で皇居賢所を参拝されたことが報じられた。このトピックに当てられた時間は 50 秒で、放送法第四条の見地からは特に問題は見られなかった。

・【特集】戦争と記録：結論→特に問題なし

特集では主に毒蝮三太夫さんが戦争について語るシーン、熊本県宇城市に住む元高校社会科教員で戦時中の子どもたちに関する資料を集めている上村真理子さんが戦時中や戦前の子どもたちの様子を語るシーン、終戦前は通信省航空局で暗号を翻訳する業務についていて終戦後には書類を焼却を命じられた前沢正己さん(90 歳)が当時の様子を語るシーン、元内務官僚で焼却に関わった奥野誠亮氏(当時 102 歳)の「ポツダム宣言の中には戦争犯罪者この処罰はちゃんとやりますよと書いてあるんです。その戦争裁判に戦犯処理されたら気の毒だからその犯罪人を出さないようにするために公文書を焼けとゆうたんだよ。」という発言の映像、政府肝煎で作られた同盟通信に勤めていた渡辺清さん(95 歳)が当時の様子を語るシーン、昭和 17 年からおよそ二年間ソビエトの日本大使館で一等書記官を務めた元駐米大使の武内龍次氏が残した焼却対象の遺品にをめぐり姪の市原和子さん・幸男さん夫婦や外務省の条約局長や欧州局長を歴任した元外交官の東郷和彦氏が語るシーン、日本初の超高層ビル霞が関ビルを設計した人物で戦前は航海士として軽巡洋艦矢矧の艦橋で戦闘状況を記録していた池田武邦さん(94 歳)が矢矧については軍事機密だったため記録が残されなかったということを語るシーンなどが取り上げられた。

また、VTR 中ではノンフィクション作家の保阪正康氏の「東京裁判の資料を読んでますとね、その裁判、この起訴状に私は本来関係してませんとこのポジションにいるけど私は何の関係もしてない起訴される筋合いがないんです。っていいたいんですね。資料がないんです。燃やしちゃったから。」「同時に後世の私たちとして、後世の人間に対して、この戦争を客観的に検証しろということの放棄、それの私たちの世代への侮辱、だと私は思っております。次の世代への侮辱ですね。次の時代はその戦争について歴史的な検証をする必要がありますね。それを逃げたわけですね。僕はこの罪の方が大きいと思う。」「資料を作ること、残すこと、次の時代に託すことは民主主義の基本でしょ。その民主主義の基本がやっぱりできていないから、こんな風に資料にたいして杜撰になっていくじゃないんですかね。国民主権が蹂躪されて、官僚主権になっていると。それで国民はそれについて何の口もはさむことができずに、それでお前たちこれを容認しろという風なのが現状でしょ。恐るべき状態だと思いますよ。僕は。」というコメントが取り上げられていた。

また、一連の VTR を承けてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返された。

膳場「今 82 歳の毒蝮さんでもあの戦争の焼け跡は自分の目で見て記憶しているぎりぎりの世代だとおっしゃるんですね。で例えとして挙げていたんですけれども、毒蝮さんの盟友のパーソナリティーの大沢悠里さん終戦当

時 4 歳だったんです。で 4 歳だと記憶にあるのはお母さんの背中に背負われて、戦火を逃げるそんな光景、そうなる戦争体験として語れることも変わってきているとおっしゃってました。そう考えるとね世代によって戦争について語れることっていうのは違ってくるんですね。」

日下部「そうですね。あの一戦争証言と我々はひと言でいうけれども大まかに加害者の側面と被害者の側面っていうのがあると思うんですね。まあ戦争を指導した人たちの話を聞くのはもはや不可能。戦場、戦闘体験のある人は 90 歳以上ですよ。それで 70、80 代の人たちが語る戦争っていうのはまあほとんど被害者としての体験なわけつまり加害者として語れる人はもうほとんどいないっていうことで、このことは心にとめておく必要があると思うんですよ。」

膳場「そうですね。そしてあの取材をしましたあの記録を保存していらっしゃるこの当時の資料や玩具などを集めていらっしゃる上村さんなんですけれども、あれだけ青少年少女たちが軍国主義に染まったのは若い世代に重点的に宣伝活動だとか、プロパガンダ活動を展開していたからなんだそうです。しかも成果がでて世の中が空気が完全に変わるまでに要した時間というのはたかだか数年だった。でねその戦後はそれが何もなかったかのように焼却処分されて検証されることもない。一連の手法、齎した効果そしてリセットの仕方というのに今回一番私、恐ろしさを感じました。」

日下部「本当に民間レベルでは戦争を語り継ごうと様々な努力が行われている。それはやっぱり子供や孫に何とか戦争の真実を伝えたいという切実な思いがあるからなんです。一方戦中戦後のですね指導者たちはいったい何をしてきたのか内務官僚だった奥野誠亮氏が語ったようにね戦犯逃れ、自己保身だった。そのために公文書を焼いた。いったい公文書は誰のためにあるのかももう一回考える必要があると思いますね。」

金平「公文書をね、破棄改ざんするって保坂さんは後の世代に対する侮辱って言い方にとどめてましたけれどもね、私はあの明確に歴史に対する犯罪行為だという風に思いますね。あの VTR をみていた中でね、その改ざん破棄に関わった人たちが自分たちのことを下っ端下っ端って言ってたでしょ。その上の人が下の人に対して汚いことを押し付けるっていう構造っていうのは全く今と同じ構造だと思うんですよ。森友の事件の時でも、自殺した職員っていうのは一番現場に近い人だったんですよ。あのすぐ脳裏に浮かぶのは、財務省の森友関連の改ざんを認めた財務省の佐川元財務局長ですね。理財局長ですね。あのほとんどそのなぜその改ざんをしたのか破棄をしたのかということについては国会では明らかにしませんでしたけども、検察が起訴しないって言うわけですから刑事訴追のおそれがあるという風に拒否した部分というのはどこかの場ですれきちんと明らかにすべきだと私は思いますね。」

この特集に当てられた時間は 2452 秒で、放送法第四条の見地からは特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

- ・日中平和友好条約から明日で 40 周年

シンポジウムは日本から鳩山元総理や横井裕大使が出席したとあったが、鳩山氏だけであれば勝手に行っただのかという見方もできるかもしれないが、横井大使も参加したとなると、出席メンバーの選定がどのように行われたのか、気になるところである。

- ・【特集】戦争と記録

占領下においては検閲・プレスコードを通じて情報統制、占領政策を通じて日本の官庁の廃止などや軍事裁判が行われていたこと GHQ は占領政策の一環として「真相はこうだ」という番組を NHK に放送させていたことも事実である。内務省は解体された一方で終戦直後に看板を組織防衛のために「軍需省」から「商工省」に代えた省が通商産業省として戦後日本経済を力強くリードしたという戦後日本への見方もある。そうした点を踏まえると、奥野誠亮氏や保阪正康氏のコメントについてスタジオで日下部キャスターの「戦中戦後のですね指導者たちはいったい何をしてきたのか内務官僚だった奥野誠亮氏が語ったようにね戦犯逃れ、自己保身だった。そのために公文書を焼いた。いったい公文書は誰のためにあるのかももう一回考える必要があると思いますね。」や金平キャスターの「公文書をね、破棄改ざんするって保坂さんは後の世代に対する侮辱って言い方にとどめてましたけれどもね、私はあの明確に歴史に対する犯罪行為だという風に思いますね。」というコメントについてはスタジオでの日下部キャスターや金平キャスターのコメントは戦後三四半世紀が経とうとしているこの平和な現代日本という感覚から終戦直後の日本側の行為のみを一方的に批判するものであり、実際に占領下ではなにが起きたのかということや、結局のところ日本で記録の廃棄が行われていようがいまいが占領下において占領軍による記録の廃棄・隠蔽あるいは特定の情報の流通遮断による情報統制が行われていたこと、いわば「敗戦と占領」の苛烈さなどを見ずに、終戦直後の日本だけを見て論じるのはいささか偏った論じ方であるように思えた。